

活経験を生かしながら予想を立て、話し合い・伝え合いを意図した学習を展開した。

高学年理科は「もののとけかた」の単元を扱った。導入での驚き・不思議さを含め理科の楽しさや伝え合いを大事にする時間保障も考え、課題設定・解決努力の2段階での学習を行った。

総合的な学習の時間は、中・高学年とも学級テーマに基づき、地域や関係機関への取材、インターネット等での調査をもとに学習の成果を発表、参観者の質問や意見に的確に答えていた。

4. 研究協議

課題意識を持たせる導入時の工夫や伝え合いのための自己の考えの確立、予期しない驚き等の大切さ、他者との受容的な関係の築き等について論議された。助言者からは、伝え合う力と評価、理論的な組み立てと実践、個人差・学年差に応じた学習指導等について助言を頂いた。

成果は、事象への不思議さ、疑問に気づく目の育ち、観察・実験力や「聴く」「話す」力の向上等が、課題は、伝え合いから高まり合いへのステップアップ、身近な自然事象の教材化と活用の工夫、評価に視点を当てた実践検証等が上げられる。

第6分科会 仁木町立銀山小学校



1. 研究主題

「自ら学び続ける子どもの育成」
～算数科を軸として、共に学び合い、認め合い、高め合う学習指導の在り方～

2. 研究内容

「学ぶ喜びを自覚し、より積極的に対象に働きかけ、学び続けようとする子ども」を目指し、「基礎基本となる学習を継続し、やる気を起こし、継続させるための教材・教具の工夫。」「主体的な学びの

ための学習過程と教師の指導・支援。」「学ぶ意欲を継続させ、個を伸ばすための評価。」の3つの視点から研究を進めてきた。

3. 公開授業

全校集会活動「なわとび集会」
朝の体力づくりとして、全校縦割り班で取り組んでいる「短なわとび」と「長なわとび」を集会活動として発表した。

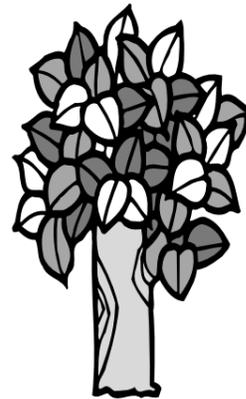
算数授業

2年生は、「かけざん」の授業。団子の数え方を「1つ分」「いくつ分」の意味をとらえさせるために、模型の団子を串に刺すという具体物の操作を通して考え、かけざんの意味をとらえさせた。4年生では、「小数のたし算」の授業。具体物で問題場面を確認し、自力解決したことをもとに小集団から全体交流。0.1をもとに考えることを理解した。6年生では、「真分数×真分数」の授業。自力解決の後、全体交流を行い、面積図をもとに計算方法について理解した。

4. 研究協議

集会活動について、児童がこれまで頑張ってきた過程がよくわかる集会で、児童会の司会や6年生のリーダーの様子など、特別活動の目標を達成していた。子供達の「ふりかえり」の中からも、集会のねらいをしっかりと身につけ、他者を支え、がんばりを認める様子が見られた、等の意見が出された。

算数の授業については、主に、発表ボードの扱い、小集団交流と全体交流のさせ方、座席表に児童の反応予想を記入しての見取り、指導計画時におけるレディネステストによる実態把握の重要性、について意見が交換され、これまでの研究成果と今後の課題が明らかになり、有意義な研究協議を行うことができた。



第7分科会 赤井川村立都小学校



1. 研究主題

「心豊かに地域とともに育つ子どもの育成～IT社会を豊かに生きるためのコミュニケーション能力の達成を目指して～」を研究主題に、平成15年度より研究に取り組んだ。

2. 研究内容

総合的な学習の時間では、伝統的に行ってきた「こめづくり」体験、「雪」を教材として取り扱うことにした。学んだことをコンピューターでまとめ、校内の発表に終わらせるだけでなく外の学校へも発信したらもっと意欲が高まるのではないかという考えから、テレビ会議システムを利用した交流学習を実施している。へき地校にありがちな閉鎖的な思考・表現の制約を交流の場や交流する方法を工夫することにより、広がりのある思考・表現力のある「コミュニケーション能力の育成」ができると考え、様々な表現活動に力を入れ、交流学習を続けている。生活科においても社会や自然との具体的な活動や体験を通して、体験したことや調べたことを自分なりに表現してきた。

3. 公開授業

1・2年生は生活科「まちのすてきをはっぴょうしよう」で「山中牧場」と「さくらんぼ公園」について発表し、マキノ北小学校は「琵琶湖の魚」について発表した。

3・4年生は野菜貯蔵施設「H MUROS」の雪の量などを発表し、西美唄小学校は米貯蔵施設「雪蔵工房」の中の温度などを発表した。

5年生は西美唄小学校と、プレゼンテーションを用いて「こめづくり」について発表した。どの学年も、発表の後、質問や感想など交流の時間をもった。

4. 研究協議（成果と課題）

新たな時代を生き抜く力について、助言者から「例えば携帯電話の急激な進歩、そのような時代にあっ

て、学校における「を使った授業が必要」と話された。

助言者から「声だけでなく、画像があることで、インパクトを与える。授業後学校内の交流があっても良かった。まとめたことを情報発信する機会が必要。」「先進的な研究。コミュニケーション能力を、自分の思いを伝える力と位置づけても育成は難しい。知りたいという好奇心から発展する能力が育成されている。」との示唆があった。

第8分科会 留寿都村立三ノ原小学校



1. 研究主題

「生き生きと豊かに伝え合う子どもの育成」
～一人一人を生かし、学び合う国語科の授業を目指して～

2. 研究内容

「『聞く・話す』『書く』技能や態度を高めながら、その力を生かし、一人一人の追求意識を高める課題や学習場面を工夫していくことで、より高い思考や知識を求めていくことができる」という研究仮説に基づき、「聞く・話す』『書く』技能や主体的な態度を高める。一人一人の追求意欲を高める課題や学習場面の工夫を視点として、説明文を扱い研究を進めてきた。

3. 公開授業

2年生は、「さけが大きくなるまで」の教材を扱い、卵を産んだ後のさけの様子を文章の言葉を手がかりに考え、写真やさけのペーパークラフトでイメージ化を図った。3・4年生は、3年「広い言葉、せまい言葉」、4年「アーチ橋の仕組み」の教材を扱った。読み取ったことを図や絵に表し、操作活動を通して確かめを行った。5・6年生は、5年「森を育てる炭作り」、6年「人類よ、宇宙人になれ」の教材を扱った。5年生では、炭作りが森の保全につながることを表にまとめ、その関係をとらえた。6年生は、宇宙飛行士マ